

5 月

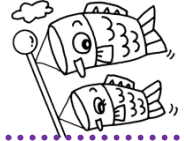
図書館だより

瑞穂野中学校



朝の 10 分間を大事にしてみよう！

読解力につながる、質の高い読書进行しよう！



～新しい環境には慣れましたか？～

気候もよく、朝の風が気持ち良いですね。瑞穂野中では、登校して8：08に図書委員の声掛けで着席、朝読の準備をし、朝の8：10～20までの10分間、集中して本を読むことを習慣としています。そのためには朝遅刻をしているようではスムーズな読書に入ることができません。生活習慣、そして読書時の姿勢などにも気を付けて、1日のスタートを清々しい気持ちで迎えましょう。1時間目の授業から、落ち着いて学習に取り組む事ができますよ。図書委員が定期的に入れ替えをする学級文庫も大いに活用してください。

また、4月に図書委員を通じて生徒の皆さんから図書購入希望調査を提出してもらいました。図書選定委員の許可をもらった、学校図書館にふさわしい本が購入されますので、楽しみにしててください！



～蔵書点検及び点検前特別貸し出しのお知らせ～

5/20(月)～5/31(金)まで、**蔵書点検**が行われ、**期間中閉館**となります。

それに伴い、お知らせの通り5/13(月)～5/17(金)までを**点検前特別貸し出し期間**としています。通常の3冊→5冊に貸し出し冊数が増え、借りた本は5/31(金)まで持っていていいです。



小中9年間を通した 読書指導を行っています



学年に沿ったテーマでブックトークを行いました。

ブックトークした本をすぐ手に取って読んでいます。

興味・関心を持つ
その姿勢が素晴らしい！

読書習慣をつけることによって、皆さんの感性が磨かれたり、思考力がつき、様々な学習の**読解力**にもつながっていくことをお伝えしました。1年生には分類法を中心に、2年生はそこから具体的に、いち早く自分の求める資料に辿り着く術を、3年生にはそれに加え、社会に出てから必要とされる力を考慮し、つけておきたい3つの力と2020年度から実施予定の大学入試共通テストについても触れたところです。

(裏面ではオリエンテーションでブックトークした本を紹介しています。)



●●1年生●●

「ピクトさんの本」 内海 慶一/ビー・エヌ・エヌ新社 分類 72

2020 東京オリンピック・パラリンピックにて使われる、それぞれの競技を表したマークを『ピクトグラム』と言います。私たちの身近な場所にもピクトグラムが使われているんですよ。街中でも楽しく探せるピクトさんの本。1年生はクイズと共に楽しみました。

「おのぞみの結末」 星 新一/理論社 分類 913

ショートショートが得意な星新一さんですが、今回は少し長めのショートショート。オチのオチまで驚きと共に十分に楽しめる。朝読にもおすすめのシリーズ。

「さよなら、田中さん」 鈴木 るりか/小学館 分類 913

小学生の頃から小説を手掛け、文学賞大賞も取っていた著者。本書は中学生の頃に発行された作品ながら、読み手を引きつける温かな作品。主人公の少女は生まれたときから父を知らず、肉体労働の母と、貧乏ながらも毎日大笑い、たくさん食べて、友達や近所の人を交えながら明るく生き抜く姿が描かれた1冊。気持ちを前向きにしてくれる物語。



●●2年生●●

「本日は、お日柄もよく」 原田 マハ/徳間書店 分類 913

製菓会社に勤めるOLが、想いを寄せていた幼馴染の結婚式に最悪の気分で開催する。ところがその披露宴で、涙があふれるほど感動する衝撃的なスピーチに出会うことになる。スピーチの極意もちりばめられ、文中の数々の感動的なスピーチも魅力的。選ぶ言葉1つで、周りの気持ちを1つにすることができる。皆さんが日々使う言葉の威力を感じてほしい。

「あきらめない練習」 植松 努/大和書房 分類 15

北海道の田舎町で宇宙開発をしている植松さん。会社を起す過程では大変な思いもあったが、それでもあきらめなかった。なぜあきらめなかったのか？彼はたくさんの伝記を読んだそう。伝記に登場する人たちは『だったらこうしてみたら？』があふれていた。「どうせ無理、やったことがないからできない」を払拭する、人生のヒントがたくさん得られる1冊。職業体験に行く2年生に、仕事に対する心がまえや自分の将来、どんな考え方や見方でいけばいいのかあらためて考え、将来に夢や希望を持ってほしい。

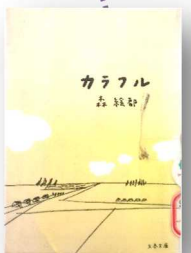


「カラフル」 森 絵都/理論社・文芸春秋 分類 (B) 913

死んでしまった男の子がたまたま抽選に当たり、自殺をしてしまった男の子の体に入り込んで成りすまして生活することに。しかしその家族は最悪で、嫌で汚い部分ばかりが目につき…。最後は衝撃の結末が待ち受ける。中学3年生を主人公とした、中学生時代に抱くであろう様々な感情を消化してくれるような温かな物語。

「神様のファインダー」 坂井 貴美子/いのちのことば社フォレストブックス 分類 74

1945年、戦争直後にアメリカ人のカメラマンとして来日したジョー・オダネル。原爆が投下された広島・長崎の惨状に胸を痛め、灰とがれきの中を歩き回り、変わり果てた風景や苦しんでいた人々を写真に残した。ジョーが亡くなった後、その遺志を継いだ奥さんが語った1冊。投下後の写真や、『焼き場に立つ少年』の胸が痛くなる写真を皆さんじっと真剣にみてくれました。戦争の早期解決のために原爆を落としたとされているが、その当時日本は空襲で痛めつけられ、すでに戦う力もなかった状況。なぜ落としたのか？原爆を落としたことは間違いだったと思っている…と彼女は語る。調べ学習で『戦争・平和』について進めた3年生、歴史や物事を知る上で、どのような状況だったのか、その背景には何があったのか知ること大切。日本そして世界について考えるきっかけとしてほしい。



心に響く1冊と出会えることを願っています。